

# 能楽謡曲の普及・発展

(85歳)

住所 秋田市

昭和35年に観世流に入門、同流シテ方である五木田武計師に師事、観世流秋田計 友会会長、秋田県観世流謡曲連盟会長、同顧問を歴任し、県内の観世流謡曲の普及・ 発展に貢献した。

また、象潟に由来する新作の観世流謡曲「象潟」の秋田普及本の作成に中心的な役割を果たし、定期的に上演するなど県内への普及に尽力した。

平成13年には、秋田県謡曲連盟会長に就任し、県内の喜多流、観世流、宝生流、 三流の結束を図り、春秋の定期大会などの事業を積極的に催し、県内能楽の普及、 発展に大きく貢献した。



# 川柳の普及・発展

# 

(83歳)

住所 大館市

昭和31年に川上三太郎氏に師事し、「川柳研究」の同人、幹事となる。

昭和55年、大館川柳わらべの会を創設し、同会及び北鹿川柳会の代表として県北の川柳界を長年にわたり指導にあたるとともに、同年から秋田・青森親善川柳大会を第30回まで開催し、秋田県と青森県の川柳界の親交に大きく貢献した。

平成13年には、秋田県川柳懇話会会長を務め、若い世代への川柳拡大のため秋田県少年少女川柳大会に対して、物心両面で協力するなど、後進育成に大きく貢献した。会長退任後も同会顧問として同会及び秋田県の川柳界を支え続け、母親的な存在として頼りにされ親しまれている。

また、秋田魁新報社の読者の文芸欄の選者を長らく務めるとともに、各地で講演活動を行うなど、川柳の普及・発展に貢献している。



# 書道の普及・発展

で とう ちく せい 清 後 藤 竹 清 (本名 後 藤 清 二) (82歳)

住所 由利本莊市

小学校教員として長年にわたり書写書道教育に精魂を傾け、児童生徒の育成に努めるとともに、自身の創作活動に力を注ぎ、昭和34年、回瀾会書展で最高賞を受賞した。

昭和36年、書道研究団体清芽会を主宰し、自らの研鑽と後進の指導に当たり、昭和56年、毎日書道展審査員となり、書家の地歩を築いた。

また、県内において、秋田県美術展覧会運営委員(専門委員)、秋田県書道連盟常任理事、秋田書道展審査委員を務めるなど、本県の美術・書道の発展に大きく貢献 した。



#### 木工芸の振興・発展

小高重光

(76歳)

住所 由利本莊市

中学卒業後、木工の世界を志し、建具制作技術習得の過程で、日本古来の組子細工の高い技術の習得・研鑽に努め、昭和49年、1級技能士の資格を取得した。

各種手作り家具を製作するかたわら、独自の感受性を生かし芸術性を高めた組子 細工を制作・発表し高い評価を得、内閣総理大臣賞を5回、農林水産大臣賞を2回、 通産大臣賞を1回など多数の賞を受賞し、秋田県の木工芸の技術力を知らしめた。

また、昭和50年の本荘市木工建具組合組合長を皮切りに、各種業界団体の役員を歴任し、県木工業界の発展、県産業の推進に努めるとともに、後進の育成にも力を注ぐなど木工芸の振興・発展に貢献した。



#### 地域商工業の振興・発展

伊藤碩彦

(71歳)

住所 大館市

昭和43年、株式会社伊徳の社長に就任し、卓越した経営手腕と斬新な企画力を発揮し、現在では、同社を秋田県内20店舗、青森県内4店舗を有する東北管内における優良スーパーマーケットまで成長させ、地域の安定的な雇用に多大に貢献している。

同社は、平成23年には秋田県と9項目について包括協定を締結し、災害時における物資の供給協力等の災害協定を締結しているほか、障害者の自立支援に向け障害福祉サービス事業所の製造品等の販売イベント、ちびっ子健康マラソン大会、営業店舗管内小学校との連携による食育活動等、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

また、昭和44年から大館商工会議所議員、常議員、副会頭、会頭を歴任し、「大館市五大プロジェクト」の実現に向けて陣頭指揮をとるなど、大館市商工業界の指導的な役割を果たした。

さらには、大館法人会会長や秋田県経済同友会代表幹事を務めるとともに、大館 ロータリークラブ会長、地区財団委員長、経済活性化プロジェクトチーム委員長な どロータリークラブの要職を歴任し、社会奉仕活動にも貢献した。



教育研究の充実・

高等教育の発展

古 村

のぼる

(69歳)

住所 秋田市

昭和44年、秋田大学鉱山学部助手に採用されて以来、同学部、工学資源学部教授として、優れた指導力を発揮し、教育並びに研究指導を通じた人材育成に尽力するとともに、鉱山学部長、工学資源学部長を務め、地域の要請を踏まえながら学部改組並びに大学院の整備を図り教育研究の充実を推進した。

また、資源学100年の伝統と実績を活かし、DOWAホールディングス株式会社等と密接な関係を築き、小坂地区を日本有数の都市鉱山に成長させる等、秋田の様々な産業発展に尽力した。

研究面では、専門分野である基礎電気工学の分野はもちろん、歩行環境シミュレーターの特許取得により、全国の交通安全対策に多大な貢献をした。

学長就任後は、秋田大学吉村プランを公表し、地域へ貢献する大学、国際的に活躍できる大学を標榜し、卓越したリーダーシップを発揮しながら大学運営に全力を 尽くしてきた。



#### 文化財の保護・植物分類学 及び生態学の研究

サ 上 まさ かね **井** 上 **エ 鉄** 

(63歳)

住所 秋田市

昭和56年、秋田大学教育学部に奉職以来、生物学、特に植物学の教育指導、研究に努め、長年にわたり多くの人材を送り出すとともに、南極観測を含めた日本の高山・極地研究や、専門である地衣類研究では数多くの新種を発見・記載公表するなど国内外から高い評価を得ている。

平成2年から、本県の文化財保護審議会委員として、文化財保護行政の推進に関わり、主に天然記念物(植物)の保護指導を推進した。平成10年から進められた天然記念物「角館のシダレザクラ」、名勝「桧木内川堤(サクラ)」の保存管理計画策定、保存修理の各委員会では委員長として中心的な役割を果たしたほか、横手市(平成17年~)及び由利本荘市(平成21年~)の文化財保護審議会委員として、県・市指定天然記念物の保護に努めた。

また、天然記念物「鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落及び新山溶岩流末端崖と湧水群」の指定に向けた総合調査、その後の保存管理計画の策定においても委員として調査 指導を担っているほか、県内所在の巨樹、名木の樹勢の衰えや保存修理に適切な助 言を与えている。

長年にわたり国土交通省、環境省、秋田県などに設置されている各種の審議会、 検討委員会の委員などを務め、自然保護・文化財保護行政全般に大きな影響力を発 揮している。



教育研究の充実・ 高等教育の発展

故中 嶋 嶺 雄

(享年76歳)

住所 東京都

平成12年、国際系大学(学部)検討委員会委員長に就任し、国際教養大学の設立 を構想段階から陣頭指揮した。

平成16年、わが国初の公立大学法人として開学した同大学の理事長兼学長として、強い信念と情熱、卓越したリーダーシップにより、グローバル人材育成を理念として掲げ、すべてを英語で学び、英語で考える授業、外国人留学生と共に暮らす寮生活、海外大学への留学義務づけなどの特徴的な取組を行う新しい大学づくりに邁進し、短期間で国内外から高い評価を得るまでに至った。

県内の小・中・高等学校との連携による異文化交流や英語教育支援を推進するとともに、平成24年には東アジア調査研究センターを開設し、海外展開を図る県内企業の支援や自治体の海外戦略に関する助言を行うなど、大学の人的・知的資源を地域社会に積極的に開放し、県民に貢献する大学づくりを推進した。

また、これらの取組により、同大学が、わが国のグローバル人材育成のモデル大学として、全国に報道されるとともに、多くの教育、行政、企業関係者が視察に訪れることにより、教育先進県としての秋田県の知名度やイメージアップにも大きく貢献した。